

- ・令和5年10月23日(月)～27日(金)の間の教員と保護者との個別相談会は無事実施することができましたことをご報告いたします。
- ・茨城支部会(茨城県)、東北支部(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県在住)を実施予定でしたが、それぞれの支部会参加者が5名未満でしたので、個別対応としましたことをご報告いたします。
- ・3月17日(日)学位記授与式への保護者様参加については、決定次第、本学ホームページでお知らせいたします。

退職者挨拶

平成19年関甲新秋季リーグ 準優勝
平成国際大学野球場にて
(後列一番左が福田教授)



経営学部 教授
福田 将史

平成元年4月、作新学院大学の開学と同時に教員として着任し、35年間無事に勤め上げることが出来ました事を心より感謝致します。在職中印象深い出来事は、創部以来30年間部長を担当した本学硬式野球部が、関甲新学生野球1部リーグ戦の平成19年秋季大会で2位となり、横浜球場で開催された関東5連盟による明治神宮野球大会代表決定戦に出場できたこと。そして連盟理事長の時、日米大学野球を連盟担当で2度開催したことです。



経営学部 教授
高橋 秀行

私は1989年4月、作新学院大学開学と同時に着任いたしました。30歳でした。この年は私の人生にとって大きな節目の年でした。結婚。転職。転居。第1子誕生。あれから35年・・・大学の年表を見ると、その時々我が家の出来事も思い出されます。大学もキャンパス拡張、学部改編、東日本大震災、コロナ禍対応、LRT運行開始、キャンパスの木々も大きく太くなりました。

また、卒業生にも、取引先や同僚として多くのご支援をいただきました。本当にありがとうございました。



人間文化学部 教授
松田 真幸

私は1989年本学開学時に30歳で経営学部の専任講師として着任しました。その後、人間文化学部への移籍、大学院心理学研究科の兼任などを経て、この3月に定年退職を迎えます。在職中にはいろいろなことがありましたが、後援会の皆様方のご支援や教職員の方々の支えにより、無事に勤め上げられたものと感謝しております。ありがとうございました。

本学では、大学で学びたいという強い意志があるにもかかわらず、経済的な理由で学業継続が困難な学生をサポートするため、様々な奨学金制度を扱っています。ここに記載されていない奨学金もありますので、奨学金が必要となった場合はお気軽に学生課までお問い合わせください。

《日本学生支援機構奨学金》

①給付・授業料減免新制度

※住民税非課税世帯とそれに準ずる世帯が対象

新給付制度紹介HP 進学資金シミュレーター



②貸与奨学金制度

※無利子の第1種と有利子の第2種があり卒業後には返還が必要

貸与奨学金紹介HP 貸与・返還シミュレーション



◇申請資格等の詳細は、QRコードのHP等から確認してください。

◇毎年4月上旬に希望者説明会を実施予定。日程等詳細は掲示板等で案内します。

【奨学金に関する問い合わせ先】

学生課
(電話)028-670-3641
(E-mail)gakusei@sakushin-u.ac.jp

●希望者説明会：4月10日、11日、12日の昼休みに実施予定

令和5年度学位記授与式

2024年 3月17日(日)

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部
第2体育館(大学・短大合同)

午前10時～
(受付：午前9時～)



作新学院大学 総務課内 後援会事務局
栃木県宇都宮市竹下町908 TEL028-667-7111 FAX028-667-7110



SAKUSHIN

Bulletin * Support Association for Sakushin Gakuin Univ.

作新学院大学
後援会報

2024 Spring Vol.63



自分らしい学びを探す。



SPOTLIGHT
ピアサポート活動

人間文化学部
下瀬川 陽

INTRODUCTION
教員研究紹介

CAREER PLANNING SUPPORT
2024年度のキャリア・就職支援体制

CAMPUS NEWS

*各種試験合格者に学長表彰と奨励金が授与されました 他

強化指定部 活動紹介

*奨学金制度についてのご案内 etc...

PEER SUPPORT ACTIVITIES

Minami Shimosegawa



Sakushin Gakuin University



人間文化学部
心理コミュニケーション学科

講師 下瀬川 陽

Profile

東北大学教育学部教育科学科卒業、東北大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻修士課程修了(教育学)。流通経済大学教育学習支援センター専任講師を経て2021年より現職。



自分らしい学びを探す。



専門は社会階層論・高等教育論です。人生を“有利”にしてくれる様々な資源(所得や財産のような経済的なもの、権力や承認などの社会関係的なもの、学歴のような文化的なもの、スキルや健康といった人的なもの…)は、社会のある集団はたくさん持っている集団では少ないというように、偏って存在しています。階層論ではこの偏り(=社会的不平等)の様子を記述したり、なぜ偏るのかというメカニズムを明らかにしようとしています。人生におけるあらゆる出来事や時点に着目して不平等についての研究がなされている分野で、私は高等教育中退に着目して、その後のライフコースに見られる社会的不平等について明らかにしようとしています。したがって、社会階層論と高等教育論をまたぐかたちの研究になっています。高等教育とは、大学・短大・高専・専門学校のことです。

専門に関連して、前に勤めていた大学では、大学での学びを全般的に支援するセンターで、教員と職員と学生のちょうど真ん中くらいのポジションの仕事をしていました。講義に参加できるように支援するばかりでなく、講義にとどまらない大学での学び(たとえばピアサポート活動など)について学生と一緒に考えたり実行したり、必要に応じて先生方や職員さんを巻き込んだり…といったことをしていました。今は専任教員なので、前職と同じようにはできないこともありますが、当時の経験を踏まえてできるだけ、学生がそれぞれ自分らしく、自分のペースで講義に参加できるように努めています。

Peer Support Students



経営学部
経営学科
3年
露久保 葵さん

学年や学部が異なると普段あまり接点がないのですが、ピアサポート活動を通じて、そうした仲間とも気兼ねなく話し合う機会を得られています。どのように工夫すれば相談会や交流会などの活動がより効果的になるかアイデアを互いに出して実践する中で、自分のコミュニケーション力の向上も実感できています。



人間文化学部
心理コミュニケーション学科
3年
瀧澤 あおいさん

私は将来大学院に進学し、公認心理師の資格取得を目指して努力していきたいと思っています。だからこそ、誰かをサポートすることや交流の大切さを学びたいと考え、このピアサポーターに参加しました。これからも大学院試験の勉強を続けながら、ピアサポーターの一員として活動していきたいです。



人間文化学部
心理コミュニケーション学科
2年
富貴澤 萌子さん

自分が1年生の時、履修や授業など学校のことで分からないことをピアサポーターの先輩方にすることがありました。自分もそんな先輩方のように活動したいと思い参加しています。今ではピアサポートを通じて学部や学科、学年の異なる人と交流することもあり、楽しみながら活動しています。

下瀬川先生の学生時代



▲ 学生時代の原付愛車と猫



▲ 旭山動物園のペンギン

東北大学には、動物がわりとよく現れていました(キャンパスによっては講義にクマが乱入したとも)。そのせい…ではないと思いますが、気づくと動物を撮っています。学生時代とあまり関係ないですが、最近はペンギンが気に入っています。

教員研究紹介

INTRODUCTION

私は、中小企業におけるコーポレート・ガバナンスに関する研究をおこなっております。近年、中小企業はかつてない逆風(継承者不在、コロナ融資返済本格化、資源高、ヒト・モノ不足、インボイス制度導入等々)にさらされており、今後どのようにして事業を継続(～発展)させていくべきか考えあぐねている状況です。

さて、近年における経営学部は、優れた専門性を有する多くの若手教員(研究者)の活躍が顕著であります(図1)。こうした現状に鑑み、彼らと共同研究することで中小企業を手助けすることができるのではないかと、思い抱きました。

また、実務家教員である私は、税理士として多くの中小企業と関わっております。中小企業には「事業承継」という今日的な最大の課題が存在します。この難題を解決するためには、地域の特性やニーズを深く理解した上で、新たな収益を生み出すビジネスモデルを開発することが有効であると考えました。今後は若手精鋭たちと手を携えながら、栃木県の「スポーツ王国」という特性(栃木県庁,online)を生かすとともに、中小企業の技術力を結集し、儲かる「作大発『新スポーツ・ビジネスモデル』」の構築(図2)を図ってまいります。



図1. 若手教員の専門性



経営学部長
経営学研究科長
教授
前橋 明朗



図2. 私たちが構想している「儲かる」新スポーツ・ビジネスモデル

私は、日本語の研究を行っています。日本語といってもその研究分野は多岐にわたり、文法や音声・音韻、語彙や歴史、語用論(言葉の使い方に関する研究)などがありますが、なかでも、人々がどのような行為を通して会話を成立させているのかを解明する「会話分析」という分野を専門にしています。

私たちは様々な人と言葉を交わしながら日々過ごしていますが、話し手と聞き手の交代がスムーズに行われたり、話題の終了や開始の認識が会話者間で一致したりすることを不思議に思ったことはないでしょうか。そうした無意識に行われている会話の実態を明らかにすることが私の研究です。例えば、先に述べた話題の終了に関わる要素の1つに「沈黙」があります。私たちは、話題の終了について言葉で明示することはあまりありませんが、無意識のうちに沈黙の長さを終了の合図と捉え判断しているのです(下記図参照)。

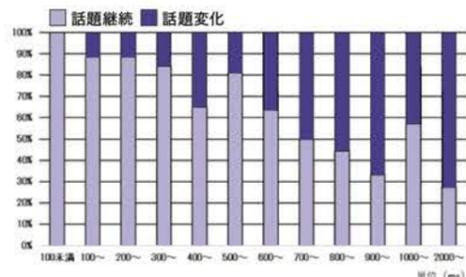
また、日本語には方言というバリエーションが存在します。言葉は生まれ育った環境に影響を大きく受けますから、地域によるコミュニケーションの

異なりに目を向けるということも大切です。大阪の人は聞き上手の話し上手、東京の人は聞き下手のおしゃべりなどと言われることもあります。そうした地域による特徴の解明も研究のテーマとしています。

会話から見えてくる日本語の多様性や文化的背景の面白さを、授業を通して学生の皆さんに伝えていけるよう今後も努めていきたいと思っております。



人間文化学部
発達教育学科
准教授
太田 有紀



話題の変化と沈黙の長さの関係(太田2020)

CAMPUS NEWS

TOPIC 1 各種試験合格者に学 長表彰と奨励金が授与されました



教員採用試験合格者の皆さんと渡邊 学長(前列中央)、川原准教授(前列右から4番目)



税理士試験、全経簿記検定試験合格者の皆さんと渡邊学長(前列中央)

資格取得支援室長メッセージ



経営学部
経営学科
特任教授
杉本 育夫

本学では、様々な資格取得をサポートするために資格取得支援室を開設しています。将来のために簿記の資格を取りたい人や税理士、会計士試験や公務員試験などの勉強をしたい人が朝から夜まで自由に支援室を利用できます。資格取得支援室には専門の教員が常駐していますので、資格取得の相談をしたり、アドバイスを受けることも可能です。学生の将来の目標に合わせて支援室を積極的に利用してください。

作大での学びはどのように役に立ったか?

(教員採用資格合格者談)
大学で実施された「個人面接」・「集団討論」の練習に毎回参加していたことは、合格の一因だと思います。試験本番の空気を味わうことができたことも、自分と同じように合格を目指す仲間と一緒に練習を行うことで「自分も頑張らなきゃ」という気持ちになりました。

また教育実習での経験もとても印象に残っています。分からないこと、困ったことがあった際には自分から先生方に質問したことで、学び多き実習となりました。結果、主体的に学ぶことの大切さを学びました。この経験は採用試験へ向けて勉強をする際にも役立ちました。自分の置かれた場所ですべて努力をすることができるのは自分次第であり、先生になりたいという強い気持ちをもって学び続けることができたのも教育実習での経験があったからだと思っています。

TOPIC 2 「第20回学生&企業 研究発表会」において冠賞を受賞!!



左から: 西村先生、須藤咲紀さん(3年)、石川 湧也さん(3年)、渡邊学長、伊藤央典さん(3年)、春日先生

TOPIC 3 第33回作新祭が開催されました



作新祭実行委員長
田代 瑞季 さん

第33回作新祭が好天に恵まれ無事開催できたこと、大変嬉しく思います。今回はコロナ禍を乗り越え、今までよりも可能な限り良い学園祭にすることを目標とし「飛翔」をテーマに掲げました。学生団体に加え外部団体の皆様の参加や花火の打ち上げなど私たちの新たな挑戦を魅せることができたのではないのでしょうか? 実行委員一同、学園祭を通して学内外の方々へ作新学院大学の魅力を少しでも感じていただけたら、幸甚に存じます。

最後に第33回作新祭にお越しいただいた皆さまを始め、ご参加いただいた学生団体、外部団体、教職員の皆さま、そしてご支援ご協力賜りました企業、諸機関、保護者後援会の皆さまに心より御礼申し上げます。実行委員一同、今後の学園祭開催に向けて引き続き精励して参りますので、何卒ご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

TOPIC 4 朝ごはんカフェを実施しました

令和5年度『朝ごはんカフェ』の第4回目(7月13日(水))と第5回目(12月14日(水))が開催されました。「NPO法人栃木県子ども応援ないる」主催のイベントで、朝ごはんの推進とフードロスの解消を目的とした活動です。



【第4回目】ボランティアとして参加した学生たち

TOPIC 5 さくら市との連携協定による活動



さくら市との連携で中学サッカーを作大生がサポート



作新祭でのシンポジウム(左より栃ウスイ産業 白井様、船田理事長・斉藤先生)



渡邊学長によるリサイタル

TOPIC 6 人命救助で感謝状授与



人命救助により宇都宮中央警察から感謝状授与

経営学部
経営学科 4年
古谷 瞳尚さん

TOPIC 7 教職実践センター主催のシンポジウムが開催されました

2024年2月9日(金)令和5年度教職実践センターシンポジウム「インクルーシブ教育に向けた学級づくり・学校づくりの課題と方策」～今、私たちができること～が開催され、県内教職関係者、本学学生、保護者が参加しました。



強化指定部 活動紹介

自転車競技部



作新から世界へ! 大きなビジョンをもって活動して参ります。



バドミントン部



第74回全日本学生バドミントン選手権大会 女子チーム5位入賞!!

陸上競技部



第102回 関東インカレ 走り幅跳び 第3位



経営学部 経営学科
4年 村上 潤さん

サッカー部



関東大学サッカーリーグ2部!!

硬式野球部



関東甲新学生野球連盟に所属しています。

CAREER PLANNING SUPPORT

2024年度のキャリア・就職支援体制

理論で学ぼう! 自己PR編

1 1年生のキャリアデザイン1の授業

経営学部 担当 特任教授 杉本 育夫

キャリアデザイン1の講義は、大学時代と大学から先の人生を様々な角度から、自分のキャリア形成を軸に学生に見つめなおしてもらいたいというのが、ねらいである。そのため、様々な分野で活躍している著名な人たちからの講義が中心となっている。

人間文化学部 担当 教授 玉城 要

シラバスの「授業の到達目標及びテーマ」をそのまま掲載します。どんな授業なのか、ご想像ください。

- ①可能性は無限大かもしれないけれど、人生の時間は有限であると気づく。
- ②生き方は一つではない。360度、どこに足を踏み出してもかまわないと気づく。
- ③多様な人が生きていく中で、自分とも他人とも「折り合い」をつけていく「ゆとり」と「心のよわらかさ」を知る。
- ④どこかにある(と思い込んでいる)自分をさがすのではなく、今ある自分を材料に、今はない自分を作っていく。そのために何をどうするかを意識する習慣を持つ。
- ⑤とにかく、動け。
「キャリア」ということを「今・ここ・自分」を軸にとらえてみてください。あなたの「生き方」「あなたの在りよう」に関わるすべてが「あなたのキャリア」です。「先が見えない世の中」。別に今に始まったわけではありません。先が見えた時代なんか人類の歴史にありません。変動、不確定、複雑、曖昧が現代をとらえるキーワードと言えます。あるかどうか分からない人生のルールやゴールなんか気にせず、あなたが自分の人生の「スゴロク」を自由にプレイする時代は始まっています。用意、ドン!
(「スゴロク」の意味が分からない人はググってください)



2 2年次必修のプレインターンシップ

プレインターンシップとは、インターンシップの準備科目です

インターンシップとは、企業や団体などで就業体験をする制度です。本学では、毎年多くの学生がインターンシップに参加し、働くことの意味を発見したり、自分に向いている仕事は何かを自己確認する機会を得ています。2年次必修科目の「プレインターンシップ」は3年次選択科目の「インターンシップ」を履修するための準備科目として位置づけられており、大学の授業で身に付けた知識と技術を1~2日間のインターンシップ(昨年度は希望者のみ)によって実践し、将来の就業に向けた適応度合いと不足能力を自己確認することが到達目標です。

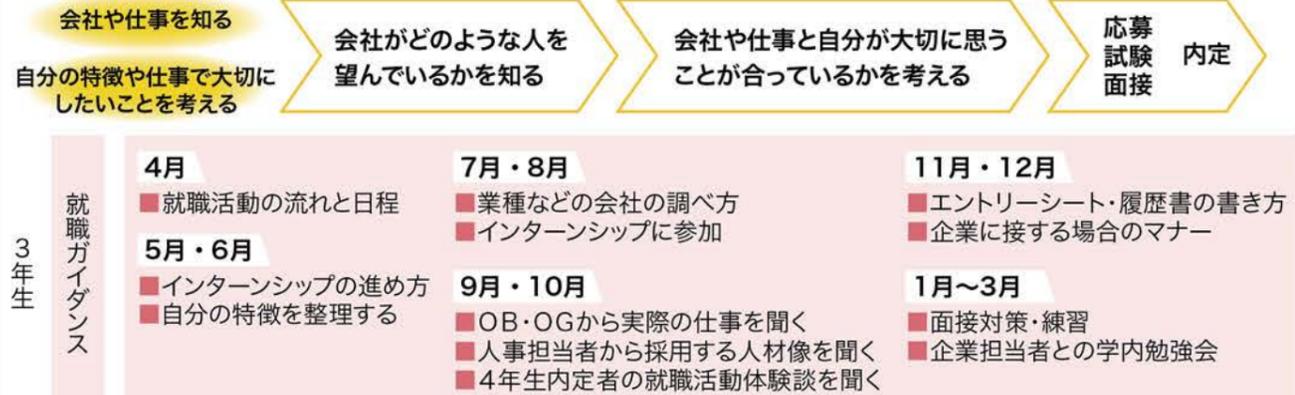
共通テキストを使用して、インターンシップの基本を学びます

- 多くの学生は、インターンシップに関する知識がほとんどありません。共通テキストを使用して、インターンシップの基本を学びます。学ぶ内容は、以下の通りです。
- インターンシップとは何か? なぜ必要なのか?
 - インターンシップの選び方、応募の仕方
 - インターンシップ参加に必要な知識とマナー
 - インターンシップ参加後の取り組み
- 共通テキストを学習することによって、インターンシップ、就職活動に必要な知識を身につけることができます。



3 3年生の就職ガイダンス

3年生は、具体的に自分はどのような仕事を選びたいかを考える時期になります。沢山の給料がもらえる仕事、面白い仕事、先輩が親切そうな会社、定年まで勤められる会社など様々な条件を考えると、就職ガイダンスでは、自分が大切にすることを整理したり、自分が毎日その仕事でどのような働き方をしているかのイメージをはっきりさせていくために、1年間じっくり考えていきます。



このコーナーでは、保護者の方にも就職活動についての考え方をご理解いただくために、大学で学生の皆さんに指導している内容を取り上げていきます。

1 大学生生活で“頑張ったこと”を考える

あなたは、大学生活で何を頑張りましたか?

就職試験では「大学生活で頑張ったことは何か」を、質問される場面が必ずあります(これは就活の3大質問と言われ、他に「自己PR」「志望動機」があります)。ではなぜ、頑張ったことを聞かれるのでしょうか。それは、企業の採用担当者が、大学生活で頑張ったことを通して入社後、その会社でどのくらい活躍できるか判断材料とするからです。

どんな能力を発揮したのか



私は、こんなときにこう頑張りました。

学生とき、一生懸命に頑張った行動を聞いてみよう!



学生とき、頑張って発揮した能力は、我が社の仕事でも同じように使えるはずだ。

我が社で発揮して欲しい能力

この学生は、我が社で活躍してくれるだろうか?

活発型もじっくり型も強みになる

活発型



じっくり型

面談で、学生からこんな話を聞きました。「運動部の人は、いろいろアピールできていいですね!私なんか毎日じみーに大学に来ているだけなんです。」でも、よく考えてみてください。毎日遅刻せずに授業に出て、予習復習で準備をして、ゼミでしっかり発表できたんでしょう。素晴らしい能力じゃないですか!企業ではコツコツとやりきる人も必要なんです。それを自信を持ってアピールできませんか。

2 就職最前線2024

内定おめでとう!! (金融機関内定)



経営学部 経営学科 永田 勝利さん

私は志望動機を深く掘り下げてノートにまとめていました。「なぜ銀行に勤めたいと考えたのか」というテーマを自分の過去と照らし合わせながら一貫性のある物語を作るイメージで取り組みました。中学、高校時代の出来事を知りたがる企業もあるので、過去を整理するという意味でも大切だと思います。面接の対策は特にしていませんが、日頃から人の目を見ながら話すことは意識していました。就活は気が重くなって辛くなると思いますが、様々な職業について話を聞くことは案外楽しいです。最初は深く考えずに企業説明会に足を運ぶことをお勧めします。

一方、新型コロナウイルスの影響により、オンラインでインターンシップ、説明会、面接が行われるなど、採用活動が大きく変わりつつあります。

内定おめでとう!! (公務員試験合格)



人間文化学部 発達教育学科 西本 真也さん

私は、1年生のときから、すべての授業に全力で取り組むとともに、教員採用試験講座への参加や、過去問を解くなどして教員採用試験対策を行い、基礎知識を固めたことで、自信を持って1次試験に臨むことができました。2次試験に関しては、教育実践センターで教職を目指す仲間と繰り返し練習を行った結果、本番では緊張することなく積極的に自分をアピールすることができました。また、学外では少年サッカーチームのコーチとして、小学生と関わっていましたが、学校とは別な場面で子どもたちと触れ合うことができたことも試験を戦い抜く上で強みになりました。

内定が得られる学生と得られない学生はどこが違うの?

